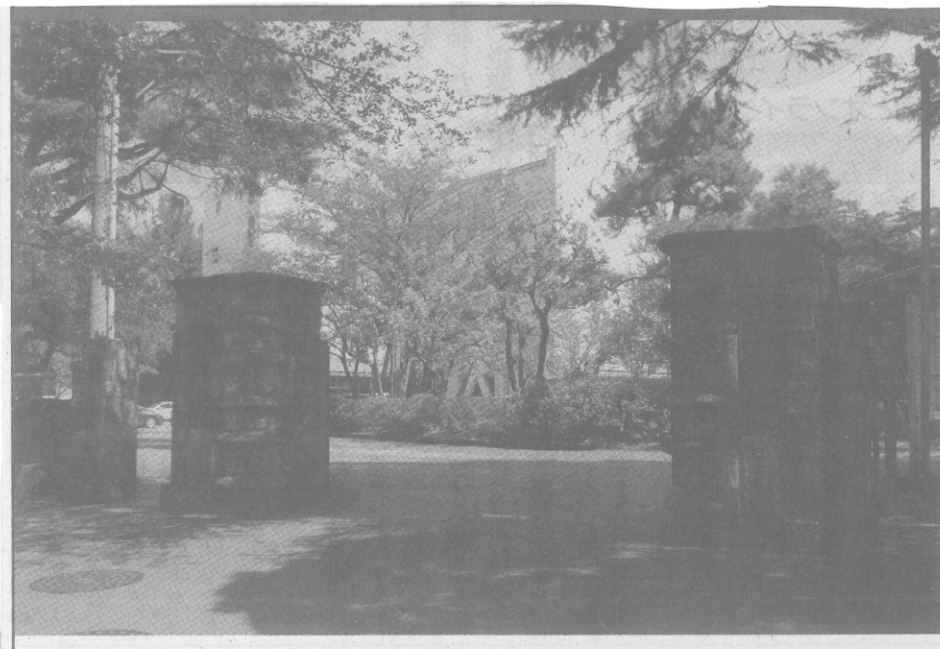




千葉県立千葉高等学校

千葉県立千葉高等学校（加藤俊文校長・千葉県千葉市中央区葛城一丁目5番2号、電話043-227-7434）は、「自主自律の精神」に基づいた教育活動を行う伝統校で、平成20年に千葉県立千葉中学校を併設する。千葉県公立御三家と呼ばれる県内屈指の名門で、国内外の各分野に有為な人材を輩出する。

重厚な教養主義
男女共学の併設型中高一貫校。全日制課程の普通科で学年制・3学期制。募集定員は320人（併設の千葉中学校からの進学者を含む）。通称は「県立千葉」や「県千葉」、「千葉高」と呼ばれる。
アクセスはJR本千葉駅から徒歩約10分、京成千葉中央駅から徒歩約15分、千葉都市モノレール県庁前駅から徒歩約10分と通学に便利。

明治11年創立

始まりは、明治11年（1878）8月に千葉師範学校（現・千葉大学教育学部）の前身、構内に千葉中学校と称して創立する。19年10月に千葉県尋常中学校に改称。32年4月から名称を千葉県立千葉中学校に改め、7月に校舎を現在地に新築移転する。11月1日に新築落成式を挙行し、この日を創立記念日とする。34年5月から千葉県立千葉中学校に改称する。大正11年（1922）3月、生徒定員1千人20級となる。
昭和19年（1944）4月から千葉市立商業学校夜間部を本校第二部に移管設置する。新学制の実施に伴い、23年4月から学校教育法による高等学校となり、千葉県立千葉高等学校に改める。翌年の24年4月から男女共学制を実施。25年4月から千葉県立千葉第一高等学校に改称。36年4月から現在と同じ校名「千葉県立千葉高等学校」に改める。48年11月、創立95周年記念並びに校舎落成記念式を挙げる。50年4月、新入学生から総合選抜制を実施する。創立100周年の53年、4月から単独選抜制を実施する。5月に創立100周年記念事業の小体育館・食堂が竣工。同時に初の強歩大会（第1回・於九十九里浜）を実施する。10月には講堂が全面修復。11月に創立100周年記念式典と祝賀会、記念碑の除幕式を挙げる。翌年（54年）の2月には100周年記念教育資料展示と葛葉美術展を開催する。
平成15年（2003）2月、創立125周年記念祝賀会兼同窓会総会を開催。10月に創立125周年記念事業の一環として校歌碑の建立、トレーニングルームとビデオトップ、記念館の改修工事がそれぞれ竣工する。20年3月に定時制課程を開講。4月から千葉県立千葉中学校（1学年・定員80人）を開校する。22年10月に中学校棟が竣工。23年4月には中学1期生が高校入学する。

『自主自律』と『重厚な教養主義』

授業方法（ティート・研究発表・大学の連携授業など）で、考える力を高めつつ、学習内容を深める。学校行事は生徒の主体的な活動を中心に行われる。行事の一つ「千秋祭（文化祭）」は、千葉中学校と同時間開催で文化部の活動成果やクラス企画を発表する。他に体育大会や校外学習、合唱コンクール（1年）、修学旅行（2年）などがある。
文武両道の部活動は、ほとんどの生徒が部活動に参加する。活動の成果は各大会や定期公演会などで発揮する。千葉中学校と連携しての部活動もある。
総合的な探究の時間は、自らテーマを決め、研究を重ねて成果を発表する。優れた研究には千葉高ノーベル賞が授与される。
自己を高めるため、講演や討論話し合いなどを通して、自己の在り方生き方、他者や社会の関わり方などにについて考えを深める。また、部活動単位で地域の防災訓練や地域行事への参加や学校周辺の清掃などを行い、地域との連携について考えを深める。
自己実現に向けて進路を考える取り組みを行う。社会で活躍する著名人の講演会や東大見学会、学部学科説明会などは卒業生らと連携して行う。

加藤俊文校長は「社会で活躍するための能力として国が提唱する『社会人基礎力』という考え方があり、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の3つの能力から構成されています。一般的な言い方では、『生きる力』ということでしょう。特徴の一つとして、個人としての能力や課題に取り組むための能力に加えて、チームで働く力が柱となっており、様々な考えを持つメンバーと協働して課題を解決していく能力が必要とされています。それでは、このような能力は、いつ・どこで、どのような場面で育

を得るため、社会に対する広く深い理解と健全な批判力及び一般的教養を養成する。」「2・自主的精神に富み、かつ自他の敬愛と協力によって、文化の創造と発展に貢献する。」「3・平和と人類の福祉に寄与し、真理と正義を愛して勤労と責任を重んずる実践力並びに健康な身体を育成する。」「3項目を掲げる。」「『自主自律の精神』のもと、『重厚な教養主義』を軸とし、『主体的な活動（行事）』、『文武両道（部活動）』、『千葉高ノーベル賞（総合的な探究の時間）』、『自己を高める（道徳・地域との連携）』、『自己実現に向けて（進路）』の特色がある。
重厚な教養主義とは、あらゆる学習の基礎となる科目を全生徒が学習する。授業は知識の習得に終わることなく、各科目の学習に対応した

成されるものなのだろうか。もちろん、生涯にわたり生活する中で獲得するものであるとも考えられますが、成長しようとするエネルギー、他人や環境から受ける影響への順応性の高さなどを持つ、若い年代にこそ育ちやすい能力であること



「葛城会」は

母校を応援する

千葉県立千葉高等学校同窓会・愛称「葛城会」（林孝二郎会長）は母校を応援する。令和2年1月18日に開催された「令和2年度定時理事会（役員改選で、鈴木一郎前会長から林孝二郎新会長に同窓会長のバトンが継がれ、新体制がスタートした。同窓会総会は、毎年2月に開催される。活動内容を母校ホームページや会報「千葉県立千葉高等学校同窓会報」で公開する。

地域支部の長生茂原葛城会や東京葛城会、東金・木更津・成田・船橋など各地域葛城会や千葉市役所葛城会や千葉銀行葛城会・のほはな一杯会（千葉医学系、葛城建友会・千葉銀行葛城会・清水葛城会清水建設などの職場支部に加え、各部活動のOB・OG会も活発に活動する。

卒業生は3万人を超え、政財界をはじめ、官庁や法曹、学術・教育医療・文化・芸術・マスコミ、スポーツなど、社会の各分野でリーダーとして活躍する。

母校の発展をお祈りします

医療法人 浄光会



千葉みなと病院



理事長

西村 佐和子

（平成5年卒）

千葉市中央区中央港1-29-1

TEL 043-241-5381

JR京葉線、千葉都市モノレール

『千葉みなと駅』徒歩5分